

平成28年 8 月15日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
(コード番号 2369 : 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 川畑 譲
(Tel: 03-5439-9691)

第三者委員会の調査報告書受領に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 6 月 6 日付開示の「不適切な会計処理に関する内部調査報告書受領に関するお知らせ」及び平成 28 年 7 月 5 日付開示の「第三者委員会設置に関するお知らせ」にて開示しましたとおり、不適切な会計処理に関する事実関係の調査を行うため、第三者委員会を設置し、本件についての事実確認の調査および会計処理の適切性・妥当性についての検討を行うため第三者委員会を設置し、調査を進めてまいりました。

本日、第三者委員会より、調査の結果判明した事実関係および問題点の指摘、再発防止のための提言を目的とする調査報告書（以下「本報告書」といいます。）を受領いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1 . 本報告書の内容

本報告書の概要は、以下の通りであります。

① 平成 26 年 12 月期の自動培養装置開発権の売上に関する検討

当社連結子会社株式会社アニマルステムセル（以下「アニマル社」という。）における、平成 26 年 12 月の自動培養装置開発権の売上 200 百万円における取引の適切性、及び売上計上の妥当性については、その売上は不適切であり、売上を取り消し仮受金とし、平成 28 年 12 月期第 1 四半期に計上した債務保証損失引当金は取り消すことが適正である。

② 株式会社アニマルステムセル及び株式会社日本再生医療機構ののれん減損について

①に記載のとおり平成 26 年 12 月期に記載のとおり自動培養装置開発権の売上 200 百万円を取り消すことにより当時の事業計画における自動培養装置開発権の販売による売上見込み、すなわち将来の利益計画の実現性はないと判断され、平成 26 年 12 月期に当社が保有するアニマル社の株式について評価損計上をする必要がある。併せてアニマル社に係るのれん及び同社の子会社である株式会社日本再生医療機構（以下「日本再生社」という。）に係るのれんについても前記の評価損計上にあわせたのれんの償却行う必要がある。

③ アニマル社における平成 27 年 12 月の培養上清液の売上

平成 27 年 12 月期にアニマル社が計上した培養上清液の売上 15 百万円は、当初売り先からの返品後に別取引先への転売と認められ平成 27 年 12 月期の売上取り消し、平成 28 年 1 月に売上計上することが適正であると判断する。

④ 前記以外の会計処理の調査結果

前記 3 件以外の不適切な会計処理は発見されなかった。

以上の第三者委員会の調査報告書の提言を前提として、一時会計監査人と相談し、適切な会計処理を行うことで、平成 28 年 9 月 15 日迄に過年度における有価証券報告書（平成 26 年 12 月期、平成 27 年 12 月期）及び四半期報告書（平成 27 年 12 月期第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、並びに平成 28 年 12 月期第 1 四半期）にかかる訂正報告書を提出し、その上で平成 28 年 12 月期第 2 四半期の四半期報告書の提出を行う所存であります。なお、当該訂正の結果、平成 27 年 12 月期の売上高は、当社が上場するマザーズ市場における上場廃止基準である 1 億円未満となる見込みです。

また、これに併せ平成 28 年 9 月 15 日迄に該当期間における訂正決算短信の開示を行い、平成 28 年 12 月期第 2 四半期の決算短信の開示を行います。

本報告書の詳細な内容につきましては、添付資料「調査報告書」をご覧ください。

なお、添付資料においては、個人情報保護の必要上、取引先および社内外の個人名について一部を除き匿名としておりますことをご了承ください。

2 . 第三者委員会の調査結果を受けた当社の対応方針

当社は、本報告書において示された役職員のコンプライアンス意識の欠如の指摘を真摯に受け止め、提言の内容を踏まえたガバナンス体制の再構築、内部統制制度の再構築を中核とする再発防止策を策定し、これを着実に実行してまいります。

- ① 役職員に対するコンプライアンス意識の徹底
- ② ガバナンス体制の再構築
- ③ 体制・規程の整備
- ④ 内部監査室による監査や内部通報制度の活性化
- ⑤ 社内処分・責任追求

再発防止策の具体的な内容につきましては「調査報告書 第 5 再発防止策の提言」をご参照ください。

株主、投資家の皆様をはじめとする関係者の皆様には、多大なご迷惑とご心配をお掛けいたしますことを心よりお詫び申し上げます。

引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上